がにが原遺跡
（はらいせき）

安宅遺跡
（あだかいせき）

平成７年度　市内緊急発掘調査概要報告書

１９９６年3月

長野県飯田市教育委員会

がにが原遺跡
はらいせき

安宅遺跡
あだかいせき

平成７年度　市内緊急発掘調査概要報告書

１９９６年３月

長野県飯田市教育委員会

序

飯田市は自然環境に恵まれ、また古来交通の要衝に位置しており、埋蔵文化財をはじめ多くの文化財を残しています。これらは私達の地域社会や文化を形成してきた様々な証しであり、できる限り現状のままで後世に残し伝えることが私達の責務であります。しかし、私達は同時によりよい社会や便利な生活を求めていく権利を持っています。ですから、日常生活の様々な場面で文化財の保護と開発という合い反する事態に遭遇することが多くなっています。

例えば、個人住宅建設や宅地造成は、豊かな住環境を整備し快適な日常生活を送るためには、認められる人間の基本的な権利といえます。しかし、これらの事業予定地が埋蔵文化財包蔵地内であった場合、事業を実施することで今まで残されてきた貴重な文化財が破壊されてしまう結果になりかねません。こうした場合、それぞれの事業に先立ち、発掘調査をして記録に止めることもやむを得ないことといえます。

ただ、これらの事業は利益の追求にのみに係らない性格のものでもありますので、個人に費用の負担を求めるのは困難なことであります。そこで飯田市では国・県の補助を受けて、このような事業に先立つ発掘調査を実施しています。

発掘調査・試掘調査の成果の概報として本書を作成しました。調査で得られた様々な事実は、これからの地域史研究で貴重な資料となることと確信しております。

最後になりましたが、調査にあたり多大なご理解とご協力を頂いた地権者ならびに隣接地の方々、現地作業に従事された作業員の方々ほか関係各位に深甚なる謝意を述べつつ刊行の辞とする次第であります。

平成８年３月

飯田市教育委員会

教育長　小　林　恭之助

例　言

1．本書は宅地開発等により破壊される遺跡の記録保存を計るため、国・県の補助を受けて、平成７年度に実施した市内遺跡緊急発掘調査の概要報告書である。

2．本書の内容は、市内遺跡緊急調査のうち、個人住宅等の建設に先立つがにが原遺跡・安宅遺跡の調査結果である。

3．発掘調査は飯田市教育委員会の直営事業として、地権者をはじめ地元地区ほか多くの方々の協力を得て実施した。

4．調査組織は以下のとおりである。

(1) 調査組織

調査担当者　がにが原遺跡・下平博行　安宅遺跡・馬場保之、伊藤尚志　総括・小林正春

調　査　員　佐々木嘉和　吉川　豊　山下誠一　馬場保之　吉川金利　下平博行　伊藤尚志　福澤好晃

作　業　員　伊藤安正　奥村栄子　小林定雄　斎藤　薫　下田芙美子　鈴木尊子　塚原次郎　林　員子　久田　誠　松下寛美

(2) 指　導

文化庁

長野県教育委員会文化課

(3) 事務局

飯田市教育委員会社会教育課

横田　穆（社会教育課長）　小林正春（同課文化係長）　吉川　豊（同課文化係）

山下誠一（同課文化係）　馬場保之（同課文化係）　吉川金利（同　　上）

下平博行（同　　上）　伊藤尚志（同　　上）　福澤好晃（同　　上）

岡田茂子（同課社会教育係）

5．本書の執筆は各遺跡担当者が行い、編集は吉川金利が行った。なお、本文の一部につき小林正春が加筆・修正・総括を行った。

6．本調査の結果出土した遺物および図面・写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

目　次

本　文　目　次

序
例　言
目　次
I　がにが原遺跡
1．調査に至るまでの経過……1
2．調査の経過……1
3．調査概要……1
4．まとめ……1
報告書抄録（がにが原遺跡）……9
II　安宅遺跡
1．調査に至るまでの経過……13
2．調査の経過……13
3．調査概要……13
4．まとめ……13
報告書抄録（安宅遺跡）……21

挿　図　目　次

第1図　発掘調査地点……2
第2図　がにが原遺跡調査位置図……3
第3図　がにが原遺跡全体図……4
第4図　安宅遺跡調査位置図……14
第5図　安宅遺跡全体図……15

写　真　図　版

がにが原遺跡
図版1　調査前・重機作業スナップ……6
図版2　Iトレンチ全景・IIトレンチ全景……7
図版3　Iトレンチ全景・IIトレンチ全景……8
安宅遺跡
図版4　遺構分布状況……18
図版5　49号住居址遺物出土状況……19
49号住居址
図版6　調査スナップ・重機作業スナップ……20

がにが原遺跡

Ⅰ　がにが原遺跡

1．調査に至るまでの経過

飯田市毛賀に所在するがにが原遺跡は、天竜川右岸の中位段丘上に立地する。当遺跡の過去に於ける発掘調査例はないが、付近には弥生時代以降の集落址の田圃遺跡・長さ約60ｍの前方後円墳代田獅子塚古墳などがある。

平成７年５月に、当該遺跡に宅地造成の計画を把握し、遺跡の実態を確認し、具体的な保護施策を行うこととなった。

2．調査の経過

平成７年８月11日に、事業予定地の地形・利用状況などを勘案し、重機により２本の試掘トレンチを掘削した。その後トレンチ内を精査した結果、縄文時代中期～平安時代にわたる遺物が多数出土し、各時代の竪穴住居址・土坑等が確認された。遺構検出面は地形変化により若干異なるが、現地表面から１～1.5ｍと深く、安定した保存状態にあることが確認できた。遺構検出後、遺構分布状況の把握を目的とし、基準点・遺構測量作業を行った。その後、重機により現状復帰を行い、調査を終了した。

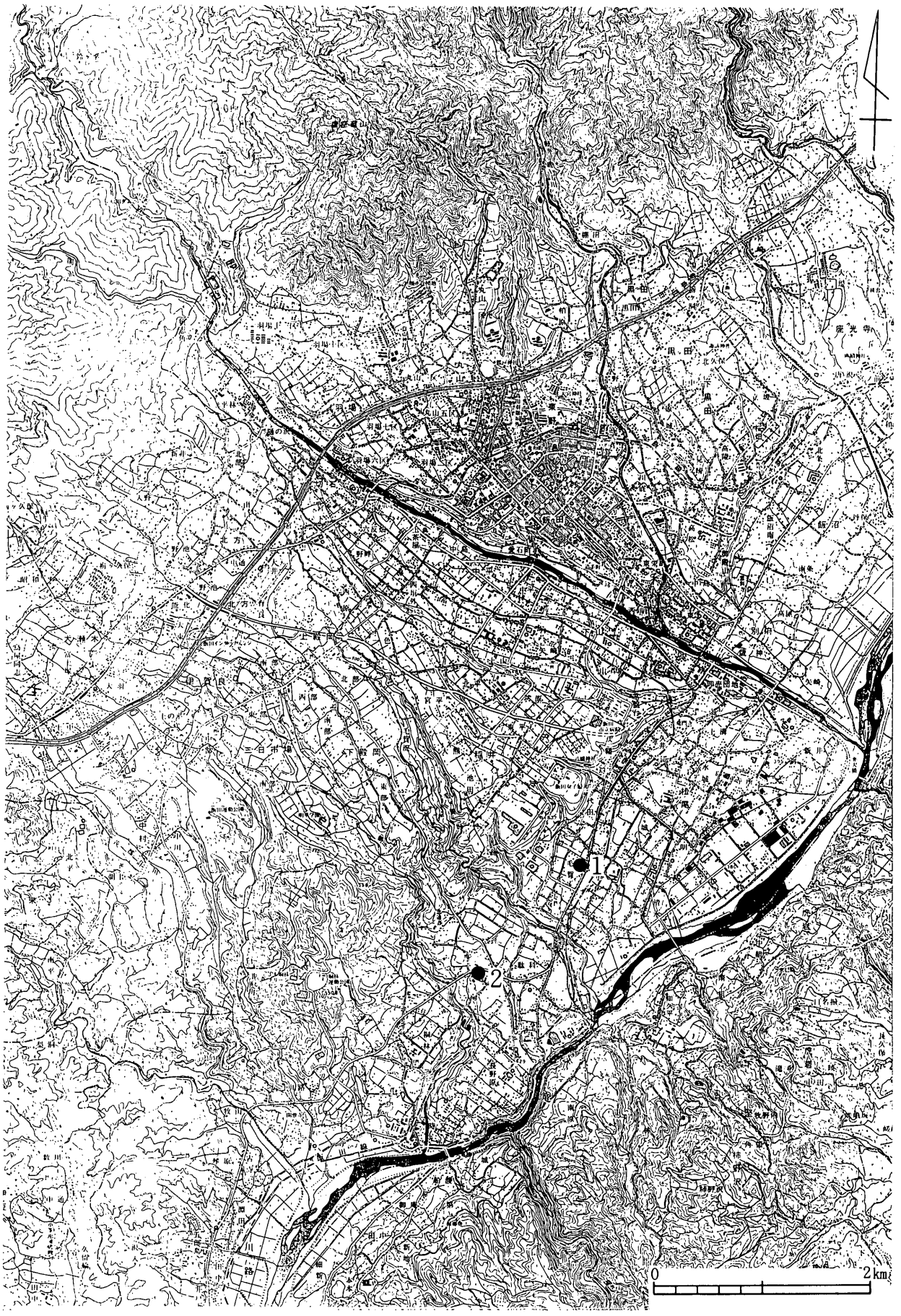
3．調査の概要

検出遺構は、確認のみにとどめたため、時期等詳細は不明であるが、竪穴住居址10軒・土坑１基と多く、各時期の遺物が確認された。なおトレンチ南側ではローム層の堆積は見られず、礫層となり、遺構・遺物は確認されなかった。

4．まとめ

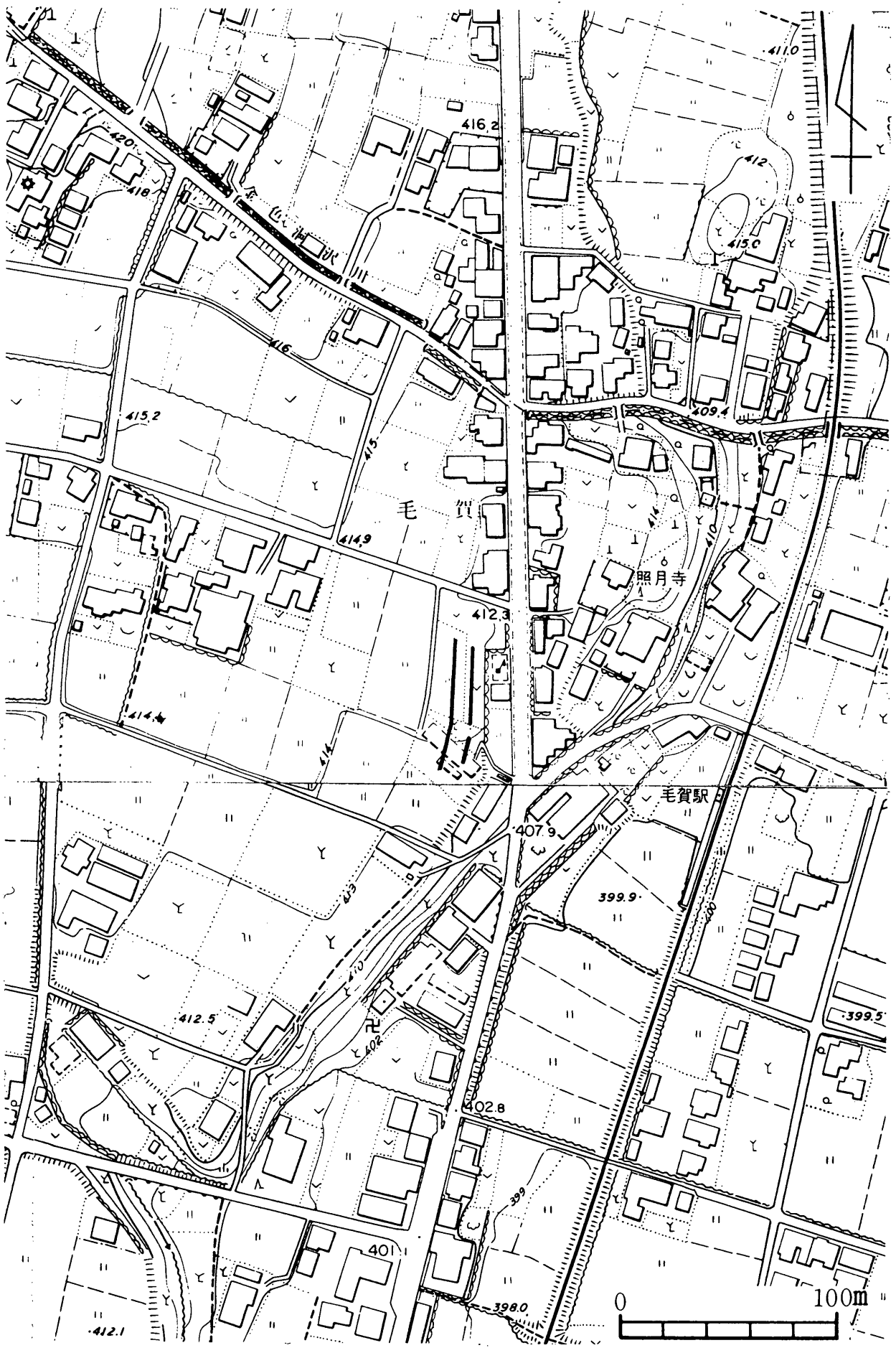
今回の調査では、縄文時代中期から平安時代にかけての住居址がかなりの密度で分布している状況が確認され、各時代にわたる大規模な集落の存在が予想された。この集落を支える生産基盤として考えられるのは、遺跡西側の高位段丘直下の湿地帯および東側の中位段丘直下の湿地帯が予想される。また調査区東側の低位段丘Ⅱに所在する田圃遺跡からも弥生時代後期からの大集落が確認されており、当地域における集落の立地が段丘直下の湿地帯と綿密な関係にあったことが窺わる。

いずれにしても、縄文時代以来、連綿と人々が生活した痕跡をとどめた地域であり、地域の歴史を理解する上で大切な遺跡といえる。今回の宅地開発にあたっては、対象建物が木造建築であり、敷地内を約30cmの盛り土し、建物基礎等も確認した遺構検出面に達しない状況が把握されたことにより、全面的な調査を実施せず、保存すべきものと判断した。また、今後遺跡帯は更に宅地開発の進展が予想されるため、遺跡の保全を図ることが肝要といえよう。

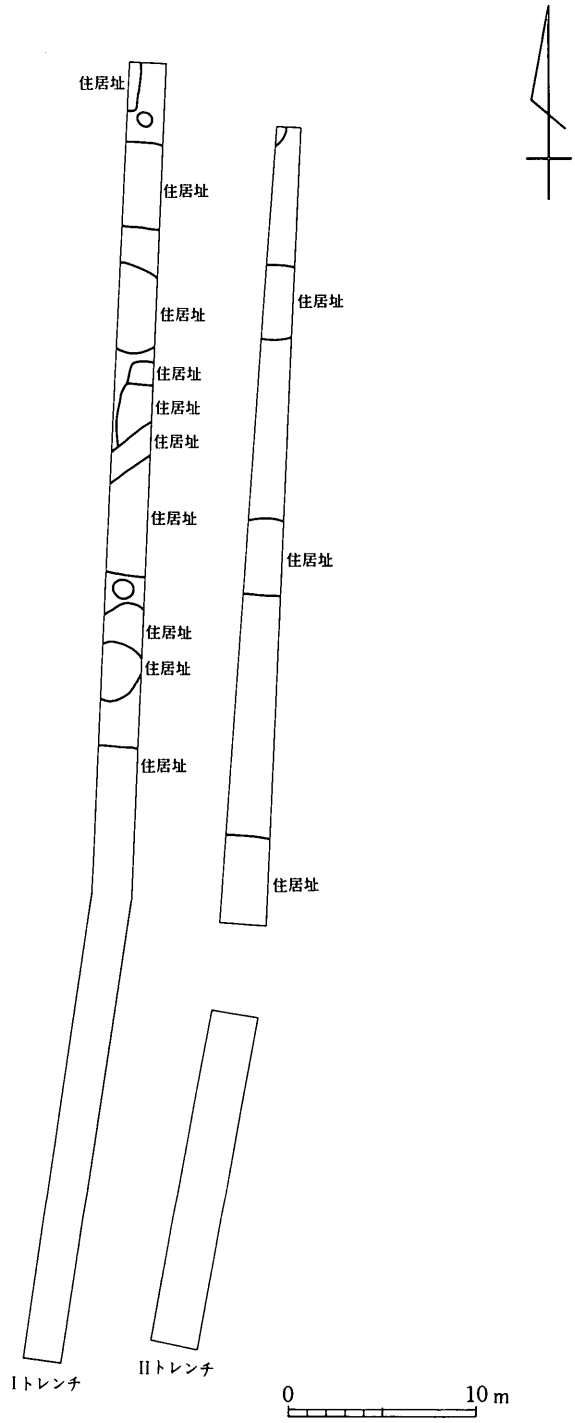


（1 がにが原遺跡、2 安宅遺跡）

第１図　発掘調査地点



第２図　がにが原遺跡調査位置図



第３図　がにが原遺跡全体図

写真図版

がにが原遺跡

図版１

調査前

重機作業スナップ

Ⅰトレンチ全景（北から）

Ⅱトレンチ全景（北から）

図版３

Ⅰトレンチ全景（南から）

Ⅱトレンチ全景（南から）

報告書抄録

ふりがな	がにがはらいせき・あだかいせき
書名	がにが原遺跡・安宅遺跡
副書名	平成7年度　市内緊急発掘調査概要報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	下平博行　吉川金利
編集機関	長野県飯田市教育委員会
所在地	〒395 長野県飯田市上郷飯沼3145番地　☎0265-53-4545
発行年月日	1996年3月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
がにが原(はら)	飯田市毛賀(いいだしけが)	2053		35° 29′ 5″	137° 50′ 28″	平成7年 8月11日	252m²	建売住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
がにが原	集落跡		竪穴住居址		他時期に亘る集落跡

安　宅　遺　跡

Ⅰ　安　宅　遺　跡

1．調査に至るまでの経過

飯田市駄科に所在する安宅遺跡は、天竜川右岸の中位段丘上に立地する。当該遺跡は昭和43・61・63平成4・7年度と5次にわたって各種開発に先立つ緊急発掘調査がなされ、縄文時代中期から中世に亘る複合遺跡として著名な遺跡である。

平成7年4月3日に、住宅兼用の診療施設建設計画が具体化し、上記のとおりの遺跡状況を勘案して、飯田市教育委員会と事業者との協議の上、地下の状況把握と必要に応じての発掘調査を実施することにした。

2．調査の経過

平成7年7月18日から、重機により試掘調査区の設定を行い、続いて24日から作業員により遺構・遺物の確認を行った。狭い面積の中に多数の遺構が重複しており、時期・新旧関係・内容を確認できなかったため、部分的に掘り下げてこれらの把握に努めた。続いて写真撮影・測量調査を行い、8月8日に調査を終了した。

3．調査の概要

今次調査における検出遺構は下記のとおりである。

・竪穴住居址	縄文時代中期	1軒	・溝址	4条
	古墳時代前期	1軒	・土坑	1基
	平安時代	1軒	・ピット（時期不明）	多数
	不明	6軒		

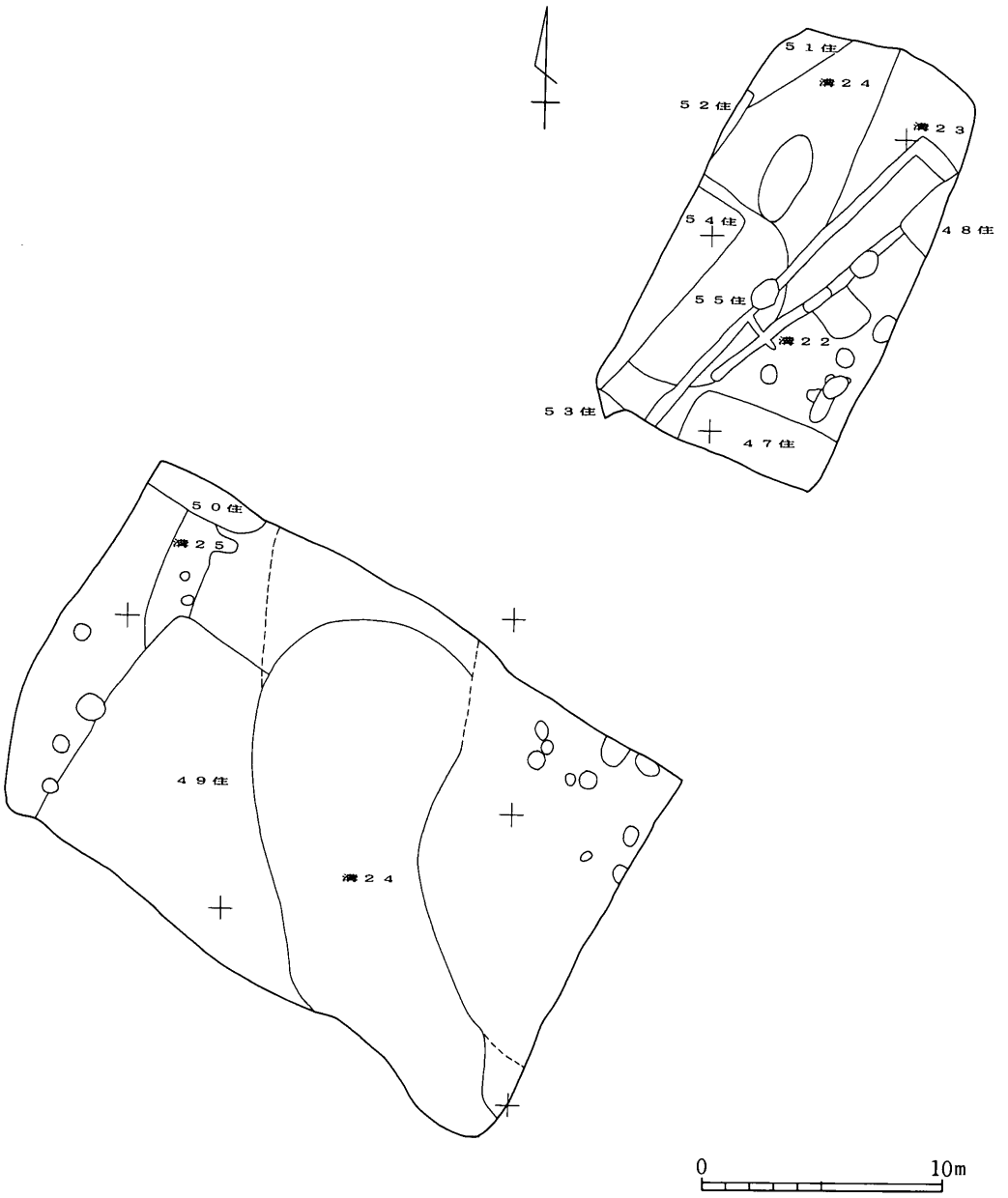
遺物は、遺構の同期のものが出土しており、特に古墳時代前期の竪穴住居址には東海地方から搬入されたものと考えられる土器がある。

4．まとめ

今次調査は前述したように限られた面積での調査であったが、過去5回に亘る調査の成果と総合して考察すれば、まず、過去5回の調査は、遺跡のほぼ中央部で実施されたもので、今次調査箇所は、昭和61年度の店舗建設に先立つ緊急発掘調査により、縄文・弥生・奈良時代の住居址等が確認された箇所に西接する。調査の結果、縄文～平安時代の住居址等が検出され、それぞれの時代に於ける集落の西端部分に位置することが確認された。また、東海地方との交流を示す土器が出土するなど、今次調査に於いても、当地方を代表する遺跡であることが証明された。

当遺跡は過去5回の緊急調査が示すとおり開発が徐々に進んでおり、埋蔵文化財の本旨に則り今後も注意深く対応する必要がある。

第４図　安宅遺跡調査位置図



第５図　安宅遺跡全体図

写真図版

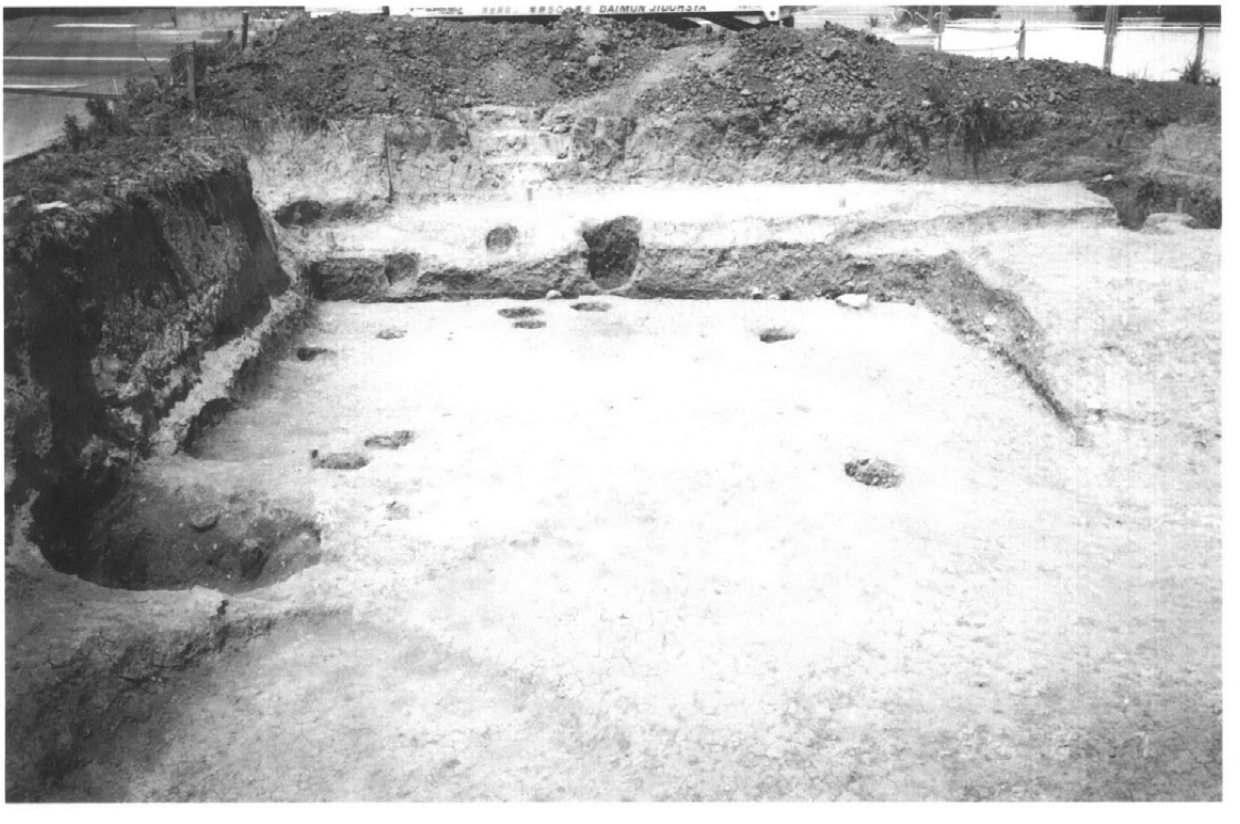
安宅遺跡

図版４

遺構分布状況

遺構分布状況

49号住居址遺物出土状況



49号住居址

図版６

調査スナップ

重機作業スナップ

報告書抄録

ふりがな	がにがはらいせき・あだかいせき
書名	がにが原遺跡・安宅遺跡
副書名	平成７年度　市内緊急発掘調査概要報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬場保之　伊藤尚志　吉川金利
編集機関	長野県飯田市教育委員会
所在地	〒395 長野県飯田市上郷飯沼3145番地　☎0265-53-4545
発行年月日	1996年３月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
安宅（あだか）	飯田市駄科（いいだしだしな）	２０５３		35° 28′ 28″	137° 49′ 50″	平成７年 ７月18日 ～ 平成７年 ８月８日	213m²	住宅兼 診療所 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
安宅	集落跡	縄文時代 中期	竪穴住居址　１軒	縄文土器・石器	1969　飯田建設事務所「安宅・大島」 1995　飯田市教育委員会「安宅遺跡」
		古墳時代 前期	竪穴住居址　１軒	土師器	
		平安時代	竪穴住居址　１軒	土師器・須恵器	
		時期不明	竪穴住居址　６軒 溝址　４条 土坑　１基		

がにが原遺跡
安宅遺跡

平成７年度　市内遺跡緊急発掘調査概要報告書

１９９６年３月19日　発行

編集・発行　長野県飯田市上郷飯沼315番地

飯田市教育委員会

印　　刷　株式会社新葉社